

福島支援 (国内外のYMCA、ワイズメンズクラブ、その他多くの団体が支援)

悩み、迷い、考えながら人びとと共に歩む

放射能汚染の危険があるために、多くの被災者が県外へ避難。そのため支援活動は全国各地で行われました。外で遊べない子どもたちへのキャンプや遊び場の提供、子どもたちやその家族の心のケアなど、国内外のYMCAやワイズメンズクラブ、多くの企業や諸団体が力を合わせ、さまざまなプログラムを実施しています。また、事故後の処理や放射能について不安を抱えながら、福島県内に暮らす子どもと家族への支援も開始しました。子どもたちの健康な成長を願い、今後も活動を継続していきます。



郡山ザベリオ学園にて「わいわいキッズin郡山」、屋内で子どもたちは思いっきり遊び、お母さんたちもリラックス。(東京YMCA・ぐんまYMCA)



「横浜YMCA熊本・東北復興応援ナイター(横浜DeNAベイスターズ対戦試合)」に、福島県などから神奈川県内に避難している家族を招待した。(横浜YMCA)



くろっちょキャンプ。「くろっちょ」とは御殿場市の市鳥「くろづぐみ」の愛称。くろづぐみのお腹の白い部分にある黒い模様はハート型であること、「今日も来て、来て」と聞こえるような鳴き声することから、「くろっちょ」がキャンプ名となった。(YMCA東山荘)



妙高高原ロッジ(新潟県)での雪遊び。昼間汗をかきながら遊んだのに、夜も子どもたちは「外で遊びたい!」と声を揃えた。(東京YMCA・ぐんまYMCA)

スノーキャンプで体も心も元気になる

思い切り体を動かし、心のケアにもつながる「わいわいキッズスノーキャンプ」(主催:東京YMCA、ぐんまYMCA/協賛:日清製粉グループ・JCCNC)を2015年2月福島県・アルツ磐梯スキー場にて実施。2016年3月は同スキー場で、2017年3月は福島県・猫魔スキー場でも実施した。(東京YMCA・ぐんまYMCA)



スキー場で子どもたちは楽しい時間を過ごした。



神戸市の啓明学院を中心とする高校生ボランティアが、福島の子どもたちを余島野外活動センターで出迎え、キャンプをした。余島は小豆島鹿島沖1kmに位置する、周囲2.2kmの無人島。(神戸YMCA)

子どもたちの未来につながるプログラム

東日本大震災と原発事故の影響で福島県などから神奈川県内に避難している子どもたちと、その家族対象の富士山YMCAニューイヤーファミリーキャンプなどを実施。2015年、CWS Japanの支援により実施した児童養護施設の児童対象の「海浜キャンプ」では、海でのアクティビティーなどを元気いっぱい楽しんだ。2016年からは就労体験なども行っている(横浜YMCA)。



富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジでは富士山を見ながら餅つきも経験。



YMCA三浦ふれあいの村では、シーカヤックに挑戦! 指導を受けながら、海の恵みと、楽しさを実感。

故郷から遠く離れた人びとを地域でサポート

兵庫県内に避難されている人びとを支援する「避難サポートひょうご」に参画し、2012年8月以来、避難者の方々の情報交換や勉強会・交流会を実施。県内のNPO、社会福祉協議会、臨床心理会などの団体・機関とも連携し、一人ひとりの社会的・経済的・精神的な自立のサポートも行なっている。(神戸YMCA)



親子で枝豆採り(リフレッシュファミリープログラム)。自然と触れ合うことで福島から避難されている家族をサポート。



千葉市少年自然の家でのフレンドシップキャンプ。福島の子どもたちと千葉市の子どもたちが交流しながら、のびのびと外遊びを楽しむ。(千葉YMCA)



富士山のすそ野でキャンプ。自然にまみれて笑顔があふれる。(YMCA東山荘)



2011

3.11
東日本大震災
東北地方
太平洋沖地震

2012

3/12
福島第一原発1号
機の原子炉建屋で
水素爆発(14日3号
機、15日4号機)

4/22
福島第一原発20km
圏内を警戒区域、そ
の周辺を計画的避
難区域等に指定

2013

4/1
田村市、川内村
の警戒区域解除

4/16
南相馬市の警戒区
域と計画的避難区
域を解除

9月
一部地域で米
の出荷を再開

2014

6/1
常磐線(広野
~亀田間)運
転再開

12/22
福島第一原発4号機
使用済み燃料プール
からの核燃料取り出
し完了

2015

3/1
常磐自動車道
の全線開通

9/5
楢葉町で避難
指示解除

6/12
葛尾村で帰還困難区域
以外の避難指示解除
(6/14川内村、7/12南
相馬市も)

2016

8/11
大熊町で福島第一原発
の立地自治体としては
初の特例宿泊開始

4/1
常磐線(浪江~小高)
開通。富岡町、居住
制限区域および避難
解除準備区域を解除

2017

出会いと交流を通して福島の実情と向き合う

学生たちの感想

2012年9月から学生YMCAでは、福島県南相馬市の市民活動「アグリ・ウォッチャー・クラブ」が主催する「ほっと♡サロンと子どもの遊び場」にボランティアとして参加し、外遊びが制限される子どもたちの運動不足や保護者たちの不安やストレスを軽減するための取り組みに協力しました。また、白河市に住む学生YMCAのOBOGの教会や市民放射能測定所『ベク知る』などを訪問するフィールドワークを行いました。

参加した学生たちは、子どもや保護者が抱える生活や健康被害の不安や課題を自分たちの問題として考え、それぞれの経験がその後の支援活動や気付きにつながっています。

